



『昔ばなし』を読んでみて・・・

校長 海 頭 巖

降霜の候、校庭の木々も赤・黄に色づくなど、五感で秋を感じる季節です。

秋といえば、『食欲の秋』『体育の秋』そして、『読書の秋』など『〇〇の秋』という言葉がよく使われます。

ご存知の方も多いと思いますが、毎年10月27日～11月9日の2週間は『読書週間』です。『読書週間』ということもあって、また小学校の校長ということ意識して、夜な夜な『昔ばなし』を読んでみました。

「そういえば、こんな内容だったな。」「えっ、こんな話だったっけ。」などと、覚えているのもあれば、そうでもないもの、懐かしい思いを描けるものなど、さまざまでした。

今回、久しぶりに読んだ『昔ばなし』で、特に「猿蟹合戦」が気に入りました。蟹に協力して猿を懲らしめる「栗、蜂、牛糞、臼」といったキャストの不思議さと、懲らしめ方のおもしろさが何とも言えませんでした。

古くから親しまれてきた『昔ばなし』を読んでいると、「猿蟹合戦」「舌切り雀」「花咲か爺さん」「桃太郎」などの共通点を感じ取ることができました。何だと思いませんか。ちょっと考えてみてください。

実は、『勸善懲惡』ということです。『勸善懲惡（善を勧すめ、悪を懲らす）』。まさしく、「水戸黄門」の世界だと思います。最近では、テレビでも放映されなくなった「水戸黄門」。時代の流れで、勸善懲惡の痛快さがうけなくなったのでしょうか。最後の最後に『伝家の宝刀』の印籠を出すことで、ストーリーの結末は分かっている、ついつい観てしまい、ほっと胸をなで下ろす。なんて、懐かしいかぎりですね。

「猿蟹合戦」では、『伝家の宝刀』がなくても最後は『勸善懲惡』。個性あふれるものが協力し合えば、難題も解決できるという証なのかもしれません。

「水戸黄門」や「銭形平次」、「鬼平半犯帳」を観ずに、また『昔ばなし』もあまり知らないで育っている児童たちには、『勸善懲惡』をどのようにして教え育てていけばいいのでしょうか。

教育には、『伝家の宝刀』はないわけですが、家庭・地域・学校が個性を出し合い協力し合って、「いじめ」や「暴力」など許してはならないことに立ち向かい、「猿蟹合戦」のように、『勸善懲惡』を実現していきましょう。

『読書の秋』に、今一度『昔ばなし』を味わってみては如何でしょうか。